

ひめだ高宏ニュース

No.1268

19.11.5

日本共産党 和歌山市公議員

近畿地方に木枯らし一号

ラグビーワールドカップは南アフリカが優勝。11月4日、大阪管区気象台は近畿地方に木枯らし一号が吹いたと発表。木枯らし一号は季節が秋から冬に変わる時期に初めて吹く毎秒8メートル以上の強い北よりの風で、昨年より18日早いということです。

日本共産党 南後援会 さっちゃんまつりに出店



あいさつする 森下さっちゃん

11月4日(祝)鳴神の鳴神社広場で日本共産党の森下さっちゃんお話を中心に、東部

後援会が開いた「第6回さっちゃんまつり」に南後援会もバザーとスーパーボールを出店。私、ひめだはスーパーボールを担出。前日フットボールの試合で、フットボールも売ってました。スーパーボールは南後援会のみで、昨年は海南の赤坂まつりにも出店。当日の朝になってホットドリンク用のヤカンが見つからず、片手ナベを使いましたが、ちよつと苦戦しました。

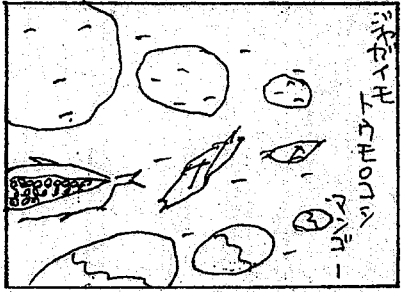


スーパーボール 売って居る オヤマン

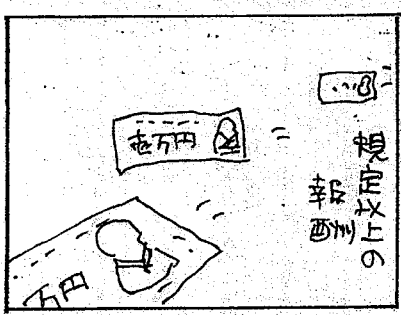
さっちゃんまつりは森下お講のあいさつなどで始まり、新婚人の愉快な踊りやグループ朋友の二胡演奏、うたごえオールスターズのうたごえ、餅つきなどが、次々に進められました。

フワフワの人々

1051



フワフワの人々



フワフワの人々



フワフワの人々



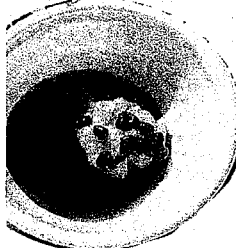
フワフワの人々

スーパーボールは上手なミスは一回でいくらでもすくいます。「天才やなあ」ほぐり声をかけるのも楽しい、遊ばせるといふ楽しさ、人でもらうこと、感じます。

今週のフワフワの人々 (その214)

今度は法務大臣が辞任

経済産業大臣に続き、今度は法務大臣が不祥事で辞任。広島選出の河井克行法務大臣は夫人の河井あゆみ参院議員の7月の選挙の車上運動員(ウグイス嬢)に法定上限を超え、報酬を渡したこと、かん買収の疑い、週刊誌が報じた直後に法務大臣を辞任しました。また、ジャガイモやトウモロコシ、マンゴーなどを配ったとのこと。あふ



モクシロク

モクシロク。しるす。甘くておいしい。しかた。



ひめだ高宏

リ氏は参議院に初当選ですが、広島厚議を二期務めており、参院選挙は夫の克行氏が実質上の選対本部だ、たとの報道です。さっちゃんまつりから克行氏の「私も妻も全くあざわり知らない」との釈明にはあきびてしまいました。アベ首相はいつも薄っぺら任命責任は私にある」と無責任に言うだけ。腐りかけてるお友達内閣は早急に退陣をお願いします。

野山のダニに注意を！

ちやうど時期を逃した気もしますが、10月7日、市健康局総務企画課から「日本紅斑熱」の届出が増加し野山に注意、又にかさの感染症として注意喚起の報告が届きました。春から秋にかけて、ハイキングや登山など野山に活動する機会を多く、ダニの活動が活発な時期と重なっています。ダニがウイロスや細菌などを

を保有している場合、咬まれた人が病気をすることがあります。ダニに咬まれることで発症する感染症のひとつである「日本紅斑熱」の届出が今年はずでに7件あり、18年は4件、17年は

7件、16年は2件と例年より多いとのこと。野山に出かける際には、長ズボン、長スボンを履き、肌の露出を少なくすること。ダニに咬まれた場合は無理に引き抜かず、医療機関で処置してくださいとのこと。出陣。民間事業者が建設・運営し神奈川を出さないか、この気象を説明この印象。

野山から入ったダニの説明会

日本共産党です

英語民間試験はちやめよ
日本共産党の野山を攻撃
策者委員は一日、国会内で記者会見し、秋生田光一文科相が同日、大衆入学共通テストへの英語民間試験導入延期を発表し

たことについては、英語民間試験の導入は延期だけではなく、キャンセルとちやめるとも主張しました。野山政策委員会は、導入中止を求め、署名活動など野山や保護者の運動、野山にも「延期法案」の提出と論戦を紹介し、市民と野山が力をあわせれば政治は変えられると語り、「地域格差

を縮小する」と多くの問題点が指摘されている民間試験の導入は延期では済まされない。導入のものやちやめると主張しました。野山にも、教育の機会均等を否定する秋生田氏は「文科相として最もふさわしくない。大臣を辞めるべきだ」と強く主張。

潮流

入社式で社長の祝辞を拒否。パワハラやセクハラを黙って見過ごさない。自分の夢や理想を誰はばかるとなく堂々と語る…。放送中のテレビドラマ「同期のサクラ」の主人公です。▼大手ゼネコンに入社した女性社員。上司からの命にも納得がいらずで説明を求める。周りの空気など読まずに信念を貫く。はじめは、痛いやつと引いていた同期の仲間たちも、やがて彼女の背を添って自身を思い直していきます。▼このころ、職場では、きりと物申す女性社員を中心に、すえたドラマが目につきます。Zエスの「これは経営で落ちません」は、仕事に誇りをもつ経理社員が誰にでも物おじせず、不正を問いたたき、同じく小説をドラマ化した「めたくし、定時で帰ります」も、残業しないが主人公の

モットーでした。▼ドラマなので過剰な演出や面白おかしく描く面も。しかし、こうした主題がある種のおこがれや痛快さを伴って女性や若い世代に受け入れられているのはなげか。▼組織のなかで一つの駒として扱われ、こき使われる。理不尽な要求やふるまいに声をあげられず、やりがいのない仕事にも自分を押し殺す。そんな弱い立場にもんもんとする日常を、働く環境がつくっているからではないのか。▼私たちにとっての北極星。「同期の〜」で影響を受けた仲間が主人公を導く。導きであり、めざす場所。その姿は、ひとりの人間として尊重されない働き方のなかで、悲み苦しむ若者たちにエールを送っているかのようです。

赤旗 日刊紙、日中、旗の普及に力をこめ。